

## ごあいさつ



北海道150年事業実行委員会会長  
北海道知事 高橋 はるみ

本道は、雄大な自然の中で縄文文化やアイヌ文化など独自の歴史や文化が育まれており、アイヌの方々の自然に対する畏敬の念や共生の思想を大切に受け継ぎながら、幾多の先人の熱意やご努力、地域の発展に尽くされた方々の創意と工夫により、今日の豊かな社会を築き上げてまいりました。

北海道命名150年の節目となる2018年。この一年を通じて各地で実施された「北海道150年事業」により、道民の皆様とともに本道の貴重な歴史・文化に感謝し、未来を展望するとともに、その魅力を広く発信することができたものと思います。関係の皆様をはじめ、事業の実施や寄附・協賛など様々な形によりご協力いただいた多くの方々に心から感謝申し上げます。

150年事業の実施に当たっては、オール北海道による道民参加型の事業を広く展開していくため、2016年6月に「道民検討会議」を設置し、道民の皆様のご意見や高校生の皆さんが描いた将来の北海道の姿などを大切にしながら基本方針を策定しました。同年11月には、89の機関・団体からなる実行委員会を設置し、2017年には、ロゴマークや事業推進の枠組み等を決定して、PRに重点を置いた取組「応援企画」が進められました。

そして2018年、道民、企業、団体等の皆様がそれぞれの「150年」への思いを込めて実施する「北海道みらい事業」が各地で展開され、1,000件を超える事業が実施されました。特に、「北海道150年ウィーク」と位置づけた7月14日から8月26日の間には、食やアート、歴史・文化、スポーツ、科学などをテーマに、本道の魅力を発信するイベント等が道内各地で集中的に開催されました。

また、165社・団体の「パートナー」の皆様により、自らの企画力やノウハウ、資金を活用した、多くの記念イベントが開催され、商品開発・販売等が行われるとともに、記念のロゴマークを使用して連携・協力する取組も広がりました。こうした各界各層の皆様からの多くのご協力が、各取組の推進と成功への大きな力となりました。

8月5日には、天皇皇后両陛下のご臨席の下、札幌市内の道立総合体育センター「北海きたえーる」で記念式典を開催しました。式典では、将来の本道を担う青少年の誓い、アイヌ民族の伝統芸能や、松前神楽、江差道分といった地域の伝承芸能の披露、会場にお集まりの様々な世代の皆様が心を一つにした合唱などにより、本道の「共生と多様性」の姿が表現されました。

様々な分野にわたって実施された150年事業は、道民の皆様が改めて本道が誇る魅力を知っていただく契機となり、また、その中で見せてくれた若い皆様の躍動に、北海道の明るい未来を確信することができました。

2018年9月の北海道胆振東部地震の発生により、道民の皆様の暮らしや経済社会活動に大きな影響が生じました。今を生きる私たちは、この困難を乗り越え、次の50年、100年先の世代に多様で活力ある北海道をしっかりと引き継いでいかなければなりません。

多くの皆様とともに進められてきた150年事業の実施経過や取組内容などをまとめた、「北海道150年事業記録誌」が、将来を担う人づくりや世界を見据えた活力ある地域づくりをはじめ、本道の更なる発展に向けた新たな取組に役立てられることを心から願い、ご挨拶といたします。